

# 技術士だより

-(社)日本技術士会九州支部・九州地方技術士センター秋季号<第13号>(平成4年9月15日発行)

## ◇巻頭言

### 魅力ある技術士会を目指して

原井東男 (九州支部長・センター会長)

先の、(社)日本技術士会平成4年度定時総会(6月30日)の支部長会議において、上田会長の冒頭挨拶の中で“最近P.E.(Professional-Engineer)制度について、日本工業会・工業技術振興協議会等で創設を検討しているとの情報がある”との発言がありました。

勿論、技術士会としても情報収集と対策を検討して行く必要がある旨の話も併せてありました。

又、技術士制度・技術士会の存在について、通産省内部や財界等に周知されていない現状であるので、今後、渉外委員会でPRの具体的方策を検討していきたいとの意見表示もありました。

この2つのことについて、私は、今更何を!!と思うと同時に、安易に聞き流される事ではないと危機感を覚えた次第であります。

ご承知の通り、技術士制度が発足して早や40周年を迎えた現在、未だに初歩的論議に終始している現状をみると、なんとも悲哀を感じざるを得ません。

わが国における技術サービスに対する評価及び技術サービス業の成熟度は、産業分野によってかなり異なっているが、社会に定着していない現実、身を持って体験されていることと思います。

技術士の社会的地位及び権威を高めるには如何なる方策が有効かを早急に検討する必要性を痛感しているところであります。

その策としては、兼ねてより、当支部が強く主張している技術士業務の法制化運動を強力に進めていく以外道はないと考えます。

それに到る道程は決して平坦ではございませんが、運動を進めるにしても(社)日本技術士会が中心的役割を果たさなければ成し遂げないと思慮されます。

会員自身が品位を高め、自己研鑽に努めることは勿論であるが、会としても、会員の増強をより一層強力に進めると共に、組織の充実を図り、関係機関・政財界へ技術士制度の存在価値を幅広くPRし協力を要請して行くことが当面の急務と思います。

“魅力ある技術士会・活動する技術士会・躍進する技術士会”を目指す九州支部の理念こそ、正に、当を得た施策であると考え次第でございます。

近況をお知らせし、各位のご理解とご協力をお願い致すと共に、ご健勝をご祈念申し上げます。

..... (1) .....

# 1人でも多くの入会をお勧め下さい

## ↓ 私の提言 技術士は機能年齢で行こう

芳賀三千億 (長崎・経営工学・第6部会長)

いま高齢化社会の波が急速に押しよせ、社会問題となっているが、機関誌“技術士”でも、技術士の高齢化が議題に上る様になった。

筆者も70歳を過ぎ、人間は何歳位まで現役として活躍できるのかという事に関心を持ちはじめ、各界で豊饒として活躍しておられる方々を紹介した記事が最近とみに目につく様になった。例えば、元最高裁長官、横田喜三郎氏(96歳)は現在でも30代後半の中川代議士のテニスの相手をしておられる。(日経新聞の交遊抄：中川昭一)。身近かな方では、筆者の母校の大先輩でもある伯野慶三先生(電気、電子部門)も当年とって96歳、まだ第1線でご活躍なさっており“技術士”本年5月号にも一文を寄せておられる。また不世出の彫刻家、平櫛田中氏は103歳の時30年分の材木を買い込んだという有名な話、川島四郎医博は、90歳を越えてなおアフリカのジャングルを独りで歩いておられる。(私の応援歌：草柳大蔵著)

女性では、地唄舞いの最高峰、武原はんさん(90歳)、作家の宇野千代さん(94歳)東京柳町の芸者「朝日姐さん」こと加藤はるえさん(98歳)(生涯現役の健康作戦：吉川博通著)等々、男女を問わず90歳代でなお現役として活躍されている方は、枚挙にいとまがない。

すなわち本人の精進次第では百歳近くまでは現役としていけるなという感触を得ている。

然しその反面、60歳定年後はすっかり老けこんで、好々爺然たる人も結構見受けられる。

こうしてみると、ただ単に年齢だけでその人の有する能力を評価するのは、いささか合理性に欠けるものと言わざるを得ない。

「戸籍年齢」と「機能年齢」という言葉がある事は一般に知られている。その著書「頭の体操」で有名な多湖先生によれば、戸籍年齢と機能年齢は、若いうちはあまり差はない

が、戸籍年齢が高くなるにつれ、その差は大きくなり、例えば戸籍年齢が75歳では機能年齢は66歳～84歳と、18歳もの違いが出てくるという。(六十歳からの生き方：多湖輝著)

海の向うの米国の文化は、或る意味では機能有効活用社会であると言われている。(終身現役への転身：田中真澄著) さすがは、お国柄、はなはだ合理的と言わざるを得ない。

以上のことをふまえて — 私の提言 —

技術士などの様に知的生産の技術を職業とする者にとって、戸籍年齢などは無用の長物であり、機能年齢を採用すべきだと思う。

かと言って自称機能年齢は説得力を欠く。

とかく日本人は権威に弱い。機能年齢を、オフィシャルなものにするため、権威ある測定機関と技術士会(先づは九州支部が)とがタイアップし、3K(健康、気力、記憶力)2T(体力、タフ)をベースとし、技術士として求められる機能を付加した測定項目を設定し、希望者には毎年、測定を実施し、機能年齢証明書を発行するようにしたら、いかがなものだろうか。

この制度を導入した場合のメリットとして

1. 名刺代わりとして営業活動に使える。
2. 戸籍年齢は神様が与えて下さるもので如何ともしがたいが、機能年齢は本人の努力次第で低くすることが可能である。従って各人、目標に向かって精進、努力しますます若返りがはかれる。

冒頭に述べたような、機関誌“技術士”に“ますます高齢化する技術士”という暗いイメージでなく、“ますます若返る技術士”という明るいイメージのテーマが議題になる様にしたいものである。

追記：筆者と同年齢のダイエー中内会長が記者懇談会で“今後30年間第1線で頑張ると披露”という新聞報道を見つつ本稿執筆。

## 日本技術士会近況

### ☆平成4年度第2回理事会

7月9日、平成4年度第2回理事会が東京技術士会会議室で開催された。議事は次のとおり。

#### ○審議事項

1. 都府県支部設立要綱(案)について
2. 日本技術士会千葉県支部の設立について
3. 技術士会館設立調査小委員会設置提案書(案)
4. テクノマート対策委員会委員の追加委嘱について
5. 海外業務促進委員会委員の交代について
6. 企業内技術士委員会委員の追加委嘱について

#### ○報告事項

1. 定時総会(平成4.6.23)の開催結果について
  2. 平成4年度技術士第1次試験受験申込状況
  3. 第4回技術士業務研修会の開催結果について
  4. 平成4年度技術基盤強化支援事業新規対象地域
  5. 第20回技術士会全国大会について
  6. 常設委員会報告
  7. 会員、準会員、賛助会員の入退会状況
- その他
1. 技術士資格の英文呼称に関する提案
  2. その他

### ☆平成4年度第1回支部長会議

日時：平成4年6月30日(火)14:00～17:00

場所：(社)日本技術士会会議室

担当支部：北海道支部

#### 会長挨拶要旨

①70歳定年問題で色々物議を醸したが、建設本省に確認したところ、さような指導をしたことはなく、今後も定年制等で指導する考えはない、との事であった。

②P. E. (プロフェッショナル・エンジニア) 制度について、日本工業会、工業技術振興協議会等で創設を検討しているとの情報があったので学術会議に確認したが、未だ当会議には相談がないとのことであった。技術士内部でもP. E. とC. E. (コンサルティング・エンジニア) について論議があるが、技術士制度は両者を兼備していると理解している(会長私見)。

③技術士制度、技術士会の存在について通産省内部や財界に周知されていない現状で

ある。PRに努めると共に渉外委員会で方策を検討していきたい。

#### 議題

①地方公共団体職員との合同セミナーについて

(結論)本部主催の名目で、年2～3支部を目標に、現予算内で引き続き実施する。本年度は九州・中四国・近畿の三支部とする。

②その他議題

○都府県支部設立要綱(案)を7月9日開催の理事会で検討することの提案があったのに対し、「地域支部」と「県支部等」と関連が明確でないので慎重な検討を要望した。例えば、呼称について、予算、決算のあり方について等。

○各支部の4年度事業計画について意見交換をしたが、時間の都合で十分な論議が出来なかった。

### ◎ 技術士全国大会へのお誘い!

第19回技術士全国大会が、技術士法施行35周年を記念して、仙台において開催されます。

○期 日：平成4年10月21日(水)

○大会会場：ホテルメトロポリタン仙台  
(JR仙台駅ビル)

〒980 宮城県仙台市青葉区

中央一丁目1番1号

(TEL 022-268-2525)

○参加資格：会員・準会員・賛助会員及び有資格者

○大会主題：あ・ゆ・み・21

愛 夢 未来

—都市と地方の調和—

人と自然の和解—

＜日本技術士会近況 つづき＞

○日程

◆平成4年10月20日(火) 大会前日

1. 見学会

・新幹線基地と仙台近郊を巡るコースです。

受付：13:00

2. ゴルフコンペ

・仙台ゴルフカントリークラブ

◆平成4年10月21日(水) 大会

会場：メトロポリタン仙台

参加費：技術士 10,000円

技術士補 5,000円

受付：9:30～ 4階ロビー

1. 研究発表会

近隣諸国の諸地域を包含する広域圏を見据えた海上人工島に関する建設技術構想(TOP)ならびに東北における地域開発、および業績について技術的成果・開発・調査研究・レビューなどを発表する。

2. パネルディスカッション

[テーマ]

環境と地域をにらんだ

国土の再構築

／ ー有限から無限大を見据えてー

3. 大会式典

4. 記念講演

東北大学文学部長

渡辺信夫 先生

題目 海からの文化

ー東北史を考えるー

5. 懇親会

6. レディスコース

◆研修旅行

1. 「A(日帰り)コース」

平成4年10月22日(木)

日本三景の一つ「松島」で、長い歴史を背景とした自然美と人工美の調和を十分堪能できるコース

2. 「B(1泊2日)コース」

平成4年10月22日(木)～23(金)

特別列車「グラシア」で行く、野口英世の生家と戦国時代の歴史が残る会津観光と温泉を楽しむコースです。

3. 「C(2泊3日)コース」

平成4年10月22日(木)～24(土)

神秘の湖「田沢湖」で辰子姫像や、雄大な自然景観「男鹿半島」を巡る贅沢な観光コースです。

◎ 第22回日韓技術士会議へのお誘い

従来本部主催で、東京・ソウルで相互開催されておりました日韓技術士会議も環日本海時代をふまえ、今年は新潟市で開催されます。

○期日：平成4年10月8日(木)

○会場：万代シルバーホテル

(新潟駅から徒歩7分)

新潟市万代1-3-30

(TEL 025-243-3711)

○内容

◆午前：開会セレモニー

合同シンポジウム

テーマ

「北東アジアにおける日韓技術士の国際貢献について」

◆午後：分科会

テーマ

化学(プラスチック産業、

／ 化学プラント設計、リサイクル産業の今後など)

繊維(世界の繊維産業の需要動向と拠点の変遷など)

食品(米の消費拡大のための加工技術など)

建設(現在検討中であるが「北東アジア環状交通体系の夢を探る」などのテーマも)

◆夕：懇親会パーティー

「万代シルバーホテル千歳の間」

○参加費：シンポジウム登録料 2,000円

懇親会費 6,000円

同伴 4,000円

注)参加費は当日ご持参ください。

○申込先：本部事務局

技術士会九州支部、九州地方技術士センター

行事・会合などの報告

☆平成4年度第1回常任幹事会合同役員会

日時：平成4年6月20日(土)11:00~15:30

場所：博多第一ホテル

出席者：原井支部長外26名

議題1. 事業計画について

①総会決定の計画について(議案書第3号議案)

②計画の報告に際しての具体策について

- 会員増強対策
- 部会活動充実
- 青年技術士の活動の具体化
- 地域間交流の具体策検討

議題2. 常設委員会計画について

議題3. 地区事業計画について

議題4. 部会事業計画について

議題5. 常設委員会の構成及び分担内容の検討

①佐賀地区よりの役員変更の申し出について

5月の総会にて決定

代表幹事 向井治孝(総務委員)

蒲生文夫(事業委員) 久保末吉(研修委員) 藤永正弘(活性化委員)

②「技術士だより」編集委員の組織について

水上、重富、完戸、小松委員、YCE 棚町(建設)委員追加

7月11日10:30~ 事務局にて開催

③名簿作成委員の編成について

水上、重富編集委員、町田理事、古賀事務局長4名

議題6. 報告事項

①本部理事会(4. 5. 21. 支部長報告)

平成4年度名誉会員、江崎親教、野中久光、向井治孝

平成4年度会長表彰者、末永實雄、野中久光、田島積

平成4年度科学技術庁長官表彰者

田島積

②支部長会議

第1回6月30日本部会議室(北海道)(前掲)

第2回11月(中部)

第3回2月(九州)

地方合同セミナー開催に対し、補助金申請中

支部・センター委員会・部会だより

◇婦・総務委員会(重富委員長)

1)第1回編集会議

1.平成4年7月11日(土)事務局

秋季号(9月15日)発行予定の“技術士だより”の編集打合せ水上副支部長外4名

2)第2回編集会議

日時：平成4年7月28日(火)17:30~19:00

場所：博多第1ホテル

議事：平成4年度版会員名簿作成(本年度大幅改正の予定)

3)第3回編集会議

日時：平成4年8月29日(土)

場所：事務局

議事：“技術士だより”第13号最終検討

4)行事予定

／会名：会員研修並びに忘年懇談会

日時：平成4年12月4日(金)13:00~20:00

場所：福岡市中央区渡辺通4-1-2

セントラルホテル、フクオカ

◇婦・試験委員会(政野委員長)

1.平成4年度技術士第二次試験(筆記試験)

6月27日試験監督員候補者選考

7月25日第1回試験委員会

8月25日第2回試験委員会

8月26日技術士第二次試験筆記試験

8月27日場所九州大学工学部

平成4年度技術士第二次試験筆記試験の結果を報告いたします。

＜支部・センター委員会・部会だより つづき＞

福岡会場 九大工学部

月/日	技術部門	申込者 <sup>A</sup>	午前 <sup>B</sup>	午後	受験率 <sup>B/A</sup>
8月26日	建設	875	449	432	51.3%
8月27日	建設以外	430	269	261	62.6%
計		1,305	718	693	55.0%

上記のとおり、受験申込者1,305名に対して、当日の受験者は718名で、55%の受験率でした。  
なお、試験監督業務に従事した、福岡市在住の日本技術士会九州支部の会員等は延べ34名でした。 以上

2. 平成4年度技術士第一次試験  
8月29日試験監督員候補者選定 士  
10月18日技術士第一次試験(技術試補)  
場所九州大学工学部

◇ 郷・事業委員会 (笠木委員長)

1. 九州支部、中四国支部、機械部会合同研修会  
日時：平成4年6月26日(金)～27日(土)  
場所 参加者  
①工場見学 (株)安川電機 61名  
②研修会及び：パルプラザ博多 46名  
懇親会 福岡市中央区 53名  
報告は別紙参照
2. 大韓火薬技術学会建設現場視察  
日時：平成4年6月21日(日)～25日(木)  
場所：スペースワールド。福岡ドーム。  
福岡地下鉄。日韓トンネル斜坑。  
玄海原発。島原普賢岳。龍門ダム。  
道路公団大分地区現場。  
視察団：大韓火薬技術学会許墳会長外13名で40%は韓国技術士。  
支部案内：笠木委員長。水上副支部長。  
田中幹事(長崎)、今村幹事(大分)  
報告は別紙参照
3. 第4回九州地方公共団体職員と技術士の合同セミナー  
日時：平成4年11月13日(金)13:00～20:00  
場所：北九州市小倉北区大門1-1-17 ↗

↗ ひびき荘  
主催：(社)日本技術士会九州支部  
◎ 参加希望者は各地区代表幹事まで申出て下さい。

◇ センター・受験対策委員会 (町田委員長)

- (1) 第1回受験対策総合講座 4月18日(土) 済  
第2回 " 6月6日(土) 済  
第3回 " 模擬試験 6月7日(日) 済  
第4回 " 口頭試験対策 11月21日(土)  
9:00～17:00  
会場：福岡商工会議所

◇ センター・研修委員会 (矢野委員長)

平成4年度試験合格者研修会並びに会員研修会  
日時：平成5年2月27日(土)13:00～19:00  
場所：福岡商工会議所 604、605、B1号室

◇ 部会報告

- 第2、4部会合同の技術研修見学会 済  
日時：平成4年8月21日(金)13:00～16:00  
研修場所：島原市南高来郡深江町地内  
研修内容：雲仙普賢岳噴火被災現況の見学及び一泊旅行  
視点：(1)火砕流被害の状況 参加者18名  
(2)防災対策計画の現状
- 第2部会技術研修見学会  
日時：平成4年10月末日予定  
場所：福岡ドーム(再度)  
福岡市中央区  
詳細は事務局にお問い合わせ下さい。 以上



— 技術士会の活性化について —

上野光夫 (鹿児島・建設・地区代表幹事)

技術士会の活性化については色々な方が色々な意見を述べて来られた。要する処、先ず何よりも会員の増強が必要であるという事である。会員が多くなければ其の声も小さく又活動資金もママならない。従って活動そのものの力が他を動かす事が出来ない。先ず会員増強策が何よりも必要であるという事である。所が入会となると会に魅力がない、会員になってもメリットがない、とて仲々会に入会して来ない。このメリット云々にも色々意見がある様であるが、私は会の活性化の前提条件である会員増強について、技術士会は当面何よりも技術士制度そのものの改善に全力投球し、頼り甲斐のある会としての魅力を感じさせる会にする事だと考えている。

現在の会には其の様な運動の積極的な動きが見えないし、現状は依然として法制定当時そのまま一歩も進んでいない。僅に部門別の研修とか会誌「技術士」の刊行はあるがこれだけでは会員に対する魅力とはいいい難い。技術士の職業法化は法制定当初からの願望であるが、憲法に定める職業選択の自由を冒すとか、国民の生命財産に直接係る職業でない等の色々な意見で今日に至っている事情は皆充分承知している。然し乍ら、さりとてこれに一歩ずつでも近づける行政上の措置改善に対し如何程努力して来たか、僅に建設部門において建コン登録規程の中で主任技術者として技術士の在籍を必須条件と定めている項目はあるが、これとて技術士の代用として一級建築士登用の項を設け、現状ではこの代用が専ら主流をなし、建コン登録は一級建築士さえ雇えば、自由になる状況で技術士優遇とは程遠い姿となっている。

技術士は技術全般18部門の全分野に拡がり、それが故に憲法で保障される条項に抵触云々があるが各々の専門分野においては職業登録に結びつく行政措置はヤル気があればいくつもある筈である。これらの可能な限りの

改善に努力する事こそ所謂職業法への糸口ではなかろうか。

許認可を司る関係省庁に積極的に働きかけるその事が技術士会の使命でなければならない。

夏季12号の新城先生の「短く握って強く振り抜こう」を先ず始める事である。

部門毎に且つ段階的に改善点を捉えて関係省庁の係官と粘り強く交渉を続ける。或いは場合によっては会員の国会議員を動員して政治的折衝も行う。これを繰り返し繰り返し折衝を行う。

かくて職業法への第一歩とも言える登録即入会の問題も案外政令措置で解決されるかも分からない。かくてピンホールに案外1、2打差縮めてカップインする効果が報いられるかも分からない。

部門別職業法化への道はそこから開かれて来るであろう。

この様に法の改善に真剣に取り組む会の姿が入会に誘い込む大きな魅力になると思う。

そしてその事は会の活性化対策の第一歩であろう。

会員増強により必然的に地域開発に大きく係る特殊プロジェクトも次第にその数を増して来るであろうし、又異業種の融合も逐次進められて地域産業にも貢献する新技術の開発も芽生えて来るに違いない。

ここに始めて国民が刮目する最高水準の技術士会が光を浴び注目されて来るであろうし会員は技術士である事の誇りと自負を勝ち得る事が出来るであろう。

要するに先ず会の動き、姿が自然に会員を引込む魅力ある動きを示すことを何よりも願望したい。

総ての活性化は会自らが真剣に然も効果的活動を始める事意外にはないと思うからである。

笠木 直行 (福岡・建設)  
 水上 信照 (福岡・建設)  
 今村 欣一 (大分・農業)

韓国の大韓火薬技術学会許埴会長より、黒瀬顧問を介して九州の建設現場を研修視察したいとの申し出があり、視察箇所および関係先への視察申込みから現地案内等を九州支部でお世話することとなった。

視察団の一行は、会長以下14名である。会長は、戦前の日本の教育を受けているため日本語は堪能である。団員は30才~40才代が大半で企業の管理職であり、その4割は韓国の技術士とのことである。

当初来日の予定は4月下旬であったが、許会長がアメリカ出張のため2ヶ月おくれて6月21日(日)~6月27日(土)の一週間と決まった。この時期、日本は梅雨期の真っ最中であるため、天候が気づかわれたが、幸い雨には1日見舞われただけで、順調に行程をこなすことができた。

視察団の見学希望箇所は、地下鉄、建築、トンネル、道路、橋梁等であったので、日程を勘案して、九州比半分の現場を対象とし、一部観光地を含めて、つぎの箇所を案内することにした。

- 6/21(日) ソウル発 福岡着  
スペースワールド
- 6/22(月) 福岡ドーム、地下鉄、  
日韓トンネル
- 6/23(火) 玄海原子力発電所、  
ハウステンボス
- 6/24(水) 雲仙普賢岳、竜門ダム
- 6/25(木) 大分県府の道路公団工事現場
- 6/26(金) 地獄巡り、高崎山、  
マリンパレス
- 6/27(土) 大阪発 ソウル着

なお、これら視察箇所へのアプローチは、それぞれの機関に關係のある技術士にお世話になり、お陰で現地でも懇切丁寧な説明を受けることができた。

旅程が数日におよぶため、案内につく技術士は一人ずつきり同行することができないので、リレー式引継ぎ交代しながらお世話することになった。

6月21日は、副支部長ほか1名が一行を福岡空港へ出迎えた。当日は日曜日であるため、一行はスペースワールドへ行き夕刻福岡の

ホテルに着いて、今回のスケジュールの打合せを行なった。

6月22日は、まず、福岡ドームを見学した。このドームは、日本初の屋根開閉式ドームで、かつてない感動と興奮のステージである。主要用途は、野球場、多目的競技場で、コンサートや大規模な展示会、見本市にも利用することができるもので、最大52,000人を収容できる広さをもっている。

現在、工事は外殻工事を終え、屋根の取付け、内外装工事を進めており、平成5年3月には完成する予定である。福岡ドームから地下鉄現場へ移動の途中から空模様がおかしくなり、ポツポツと雨が降り出した。

地下鉄現場では、福岡市交通局の係官から説明を受けた。工事は隧道部分はほぼ完成しており、現在は駅舎、プラットフォーム、軌条敷設の工事を施工中であった。韓国でも、ソウル他2箇所地下鉄工事を進めており、今回の視察団もトンネルや地下鉄の工事関係者が多いせいゆゑ熱心な質疑が交わされた。

地下鉄現場の視察を終えた一行は、雨降りしきる中、博多駅よりバスに便乗、一路西下した。案内は支部より水上、国際ハイウェイ建設事業団日韓トンネル研究会九州支部より末次事務局長が行った。車内で日韓トンネルの概要を、ビデオ、パンフレットにより説明がなされた。韓国側の一行は、始めて聞く事で、非常に興味を示し、特にトンネルの専門家が、種々の質問が活発に出されていた。

車窓からの景色は、日本特有の梅雨の雨にけふる松林、玄海の海辺等、一行も熱心に景観を楽しんでいるように思われた。

目的地の佐賀県鎮西町の調査斜坑には4時近くに到着、早速調査事務所にて、事業団の藤橋所長より、図面他により概要の説明を受けた。調査斜坑は1986年10月に着工、現在5.5m×5.0mの断面で、延長410mで施工されている。尚この斜坑は本坑建設時のパイロットトンネルに使用出来る設計にしているとの事であった。一行はトンネル専門家に付き、是非切羽先端まで <次ページにつづく>



＜行事レポート つづき＞

見学したいとの要望で、急勾配の斜坑を下り、所長の案内で詳細に見学することが出来た。延長400mだが、勾配が急で、登る時はひと汗かいた状態で、時間も大幅に遅れ、ホテル（唐津）到着も1時間以上遅れ、事務局長と二人で博多に着いたのは9時過ぎであった。

6月23日は玄海原子力発電所の増設工事およびハウステンボスの見学であったが、生憎、案内役がつくことができず、研修団のみで見学してもらうことになった。この日の夕刻は長崎のホテルに黒瀬顧問および田中代表幹事が表敬訪問して夜の長崎を散策しショッピングを楽しんでもらった。

6月24日は、午前中バスにて雲仙普賢岳を見学した。

普賢岳は、平成2年11月に約200年ぶりの噴火により、火山活動を再開して、溶岩ドームの出現、火砕流、土石流が多発し、多くの人的、物的被害が生じている。

現在、第七ドームが出現し、溶岩噴出量は1億 $m^3$ にも達し活動は依然として活発で長期化の様相を呈しており、地域住民の生活に深刻な影響をおよぼしている。

韓国には火山がないため、このような自然災害には驚嘆した様子で、バスから下りて盛んにシャッターを切っていた。今火砕流でも起きれば危険であるので、ここを足早に立ち去り、多比良からフェリーで長洲へ渡ってつぎの視察地竜門ダムへと向かった。

竜門ダムは、建設省が施工中の多目的ダムで、その目的は

- ① 洪水調節
- ② 流水の正常な機能の維持
- ③ かんがい（灌漑）
- ④ 工業用水の開発

である。

このダムの特色はつぎの3つである。

1つは、コンクリート重力式ダムとロックフィルダムの複合ダムであること。つまり左半分と右半分が型式の異なるダムである

2つは、コンクリートダム部分の施工法がRCD工法（Roller-Compacted Dam-Concrete）と云う施工法を採用していることである。これは、九州においては初めてのコンクリート打設法で、超硬練りのコンクリートを、

ダンプトラックで運搬し、ブルドーザーで敷均した後、振動ローラーを使用して展圧するもので大幅に後期を短縮することができる工法である。

3つは、流域外から導水路2本を引き、それぞれ10 $m^3/s$ の用水をダムに貯留するものである。

工事は、ほぼ90%進捗しており、コンクリート部分は天端までの打設を終えていた。

一行は熱心な質問をしていたが、許会長の通訳で専門語も難なく伝えることができたようである。

当初は、ダム本体の見学を終えたら、その日の宿泊地別府へ急ぐ予定であったが、見学予定になかった導水路の現場を是非見学したいとの強い要望が出て、急遽現場まで迂回することとした。

現場事務所に来意を告げ、連絡を取ってもらったら、丁度3時の休憩時間になったので、現場責任者が坑内からやがて出て来るとのことと、しばらく坑口で待つことにした。

坑口の脇に、説明用の立看板があり、その前で施工機械や施工法の説明を受けたが、トンネル工事の専門技術者が多く、特に熱心な質問が集中した。トンネル内の狭い現場では、施工機械の性能が工程、コストに大きく影響することになるので、新鋭機械に対する情報収集意欲はなみなみならぬものが窺われた。

メーカーはどこか？ 価格はいくらか？ カタログはあるか？ 等の質問があった。

アメリカにもよい機械はあるが、部品調達メンテナンス、故障修理等を考えると、日本の方がその日のうちに韓国まで行き来できる地理的条件の有利さがあるので多少高価であってもよいとのことである。約2時間遅れて別府へ出発した。

6月24日（水）、大韓火薬技術学会許填会長以下14名の出迎えのため別府市の杉ノ井ホテルにて待ち合わせるが、予定時刻を過ぎてもなかなか到着しない。約2時間遅れとの連絡が入る。相当熱心に各地の見学をしている模様である。19時頃到着、皆な若く非常に元気そうである。明日の行動を打合せて別れる。隧道工事の施工機械及びトンネルの切羽の状況がみたい様子であった。

＜次ページにつづく＞

＜行事レポート つづき＞

翌25日杉ノ井ホテルを予定通り9時発、大分市にある日本道路公団大分工事事務所への案内のため同乗、道中、許填会長より別府市の人口？大分市の人口？とおきまりの質問が入ってくる。九州で一番気候のよいのは何処？宮崎であろうと答える。緯度は変わらないのにどうしてか、と、なかなか質問の内容が激しい。午前9時30分大分川河畔の日本道路公団の事務所へ着く。会議室に案内され、渡辺所長の工事概要の説明を受ける。本線工事の着工は昭和63年3月であり、5月末現在で82%の進捗率で、舗装工事、標識工事、施設工事を除き主要工事は殆ど完了の状態であり隧道工事の施工状況及び切羽の状態は見学できず、視察団一行は少しガッカリした模様であった。

主要工事計画を示すと、

(1)構造規格

第1種3級-A, 設計速度 80km/hr,  
車線数 4車線, 最小曲率半径 350m,  
最急縦断勾配 4.6%

(2)工種別延長

土工 10,648m, トンネル 5箇所  
3,065m, 橋梁 9箇所 1,092m,  
延長 14.8 km

以上の説明を受け、全線の工事施工状況をバスにて視察、特殊な架設工法で施工されている乙原橋の実施状況の説明を受ける。(下に写真)

別府終点到正午着。比較的工事状況視察が早く終わったため午後から地獄見物に予定変更。海地獄、鬼山、白池、山地獄、血の池、竜巻地獄と巡回したが、韓国にはこのような地獄がないためか、一同異常な興味を示していた。特に成分に注目していたが、小生も子供の時に来たほどで、確実な知識もなく、十分な説明が出来ず残念であった。

これで1日の行程も終了、大分の宿への帰途についたが、国道10号線に出る少し手前、県道鉄輪・亀川線の河川の上部に「グレーチング」を設置している理由は？と会長が尋ねる。小生も度々ここは通るが、なんら気に掛けていなかったため、十分な説明ができなかったが、後で別府土木事務所の管理課長へ尋ね、先方へ連絡した。

以後、明日視察する高崎山の話をしてしながら大分の宿舎である都インホテルに到着、1日の行程を終了する。

以上



## 行事レポート ◇機械部会・中四国支部・九州支部合同研修会に参加して

黒江 浩（福岡・機械）

平成4年6月26,27日にわたって九州支部、機械部会、中・四国支部の第9回合同研修会が行われた。

参加者は総勢62名で、第1日は榎安川電機黒崎工場のロボット工場を見学した。ロボットがロボットを作る工場として、国内だけでなく世界的にも有名で世界各地からの見学者も多く、折りからの景気低迷で生産はおちているものの流石に素晴らしい工場です。全員深い感銘をうけた。質疑応答も活発であった。

工場見学のあとバスで研修会場であるベルプラザ博多に向かった。途中九州支部の水上副支部長から発展する博多港、百道地区のドーム建設現場などの説明を受け午後5時すぎ会場に到着した。

6時半から懇親会が九州支部の原井支部長の音頭で始められた。顔見知りと再会を懐かしむ顔、またはじめての顔で仕事の話、趣味の話などを交えての自己紹介など、いたるところで話に花が咲き、あっといふまの2時間であった。話の続きは翌日の研修会でと別れを惜しみながら散会した。

翌日は若干小雨模様であったが9時から研修会が開催された。まず、九州支部の原井支部長の挨拶に続いて第1部の情報交換に移った。機械部会の倉員部会長、中・四国支部の本多支部長、九州支部の水上副支部長からそれぞれ各部会、支部の事業計画、近況報告がなされた。

倉員部会長からは「専門技術士、企業内技術士、各地方の技術士の人達に幹事になってもらって、毎月第2金曜日に例会を開いている。講演、名簿の発行など積極的な活動をしている。」と報告があった。次に経営工学部会の木村部会長から「経営工学部会では偶数月の第1木曜日に例会を開いている。今回は名古屋で合同部会を行ったため会員を誘えなかった。最近では皆が困っていることをテーマに話し合うケースが多い。」との説明があった。

また、中・四国支部の本多支部長から「中・四国支部は9県で、会員は準会員を含めて289名である。昨年からは編集委員会を設けて、

会報の定着化を行い、また、研修会、講演会を8回ほど行った。」との説明があった。

最後に九州支部の水上副支部長より、九州支部では総務委員会を設けて“技術士だより”をだしていること、平成3年度に部会を発足させ7回見学会が実施されたなどの説明が行われた。

そのあと、九州地方技術士センターの矢野副会長の司会で意見交換が行われた。センターと支部の2本建ての理由、そのため支部入会の疎外要因になっているのでは、など会員増強に対する積極的な意見交換が行われた。また、九州支部の韓国、東南アジア等との交流事例について具体例の説明がなされた。活発な討議のうちに第1部を終了した。

休憩のあと第2部の講演に移り、西日本銀行監査役の福田靖氏の「サラリーマンとストレス」と題する2時間にわたる講演が行われた。その内容をかいつまんで説明すると、現在日本人の精神構造は活力を失っている。うつ病が増えている。1985年のデータによると日本人は100人中17人がうつ病である。これに比し中国では1万人中たった7人である。うつ病が何故このように多いかという点、世の中が高速化し生理リズムを崩すためであるといわれている。しかし、どんなにストレスがあっても暖かい人間関係があれば、クッション的役割を果たすものである。これからは如何に心の健康を考えるかの時代になっている。など我々の先端技術、高度情報化社会に生きるサラリーマンが心すべき、数々の示唆に富んだ話が氏の巧みな話術に魅了されて、あっといふ間の2時間であった。

定刻の12時に研修会は無事終了し、各人またの会う日を期し、別れを惜しみながら小雨けふる博多の巷に三々五々散っていった。

最後に、本研修会開催に骨折っていたたい方々に感謝して筆を擱きます。

以上

<行事レポート おわり>



随想



## 「言葉の杖」

小川 康夫（福岡・建設）

先日、人脈づくり・異業種交流の草分け・第一人者とも言われている「青木匡光」さんの「豊かな人間財産のつくり方・香りある人間になるために」の講演会で「言葉の杖」という言葉を知りました。

何となく堅苦しい響きを感じる「座右の銘」や「格言」「金言」と、ほぼ同義語とされますが、柔らかい響きがあり、私にとっても「言葉の杖」の方がピッタリくるような気がし、さすがにうまい言葉だなあと感心させられました。

「言葉の杖」は人それぞれであるでしょうし、自分を振り返ってみても、年代と共に変わりつつあるような気がします。

特に、私の場合、登録年月日：平成元年3月3日、登録番号：22222の技術士登録証を手にしてから、大きく変わりつつあるような気がします。それまでの私はどちらかというと自分の殻に閉じ籠もりがちであり、人の意見にもあまり聞く耳を持たず、人付き合いの悪い方で、一番の言葉の杖としては「学卒に負けてたまるか」であり、昭和45年工業高校を卒業後、現在の会社に入社して以来、良くも悪くも、ただ我武者羅に頑張る事が目標であったような気がします。

登録証を手にしたときには、学歴コンプレックスが消えて無くなると共に、「学卒に負けてたまるか」という「言葉の杖」から卒業できたような感じがします。それからは、「技術士」という資格を大いに利用させてもらい、色々なところへ羽根を伸ばしつつあり、新しい「言葉の杖」に数多く触れる事ができつつあります。

### 「陽転思考」

あるところで、心理学の先生から、あなたはもう少し「陽転思考」された方がいいですね、とアドバイスされたときにはピンと来ませんでしたが、今では、私にとって、基本となる「言葉の杖」になっています。従来どちらかという、マイナス思考気味で、うまく行かなかったときにどうするかを考えながら行動する事の多かった私にとっては、正反対の思考法であり、最初は半信半疑でしたが、

教えられた通り、悩みごとが出て、無理やりにも意識的に陽転思考をしているうちに気分的にスッキリし、うまく行く事が多くなったような気がします。

### 「自分で自分を励ます能力」

YCE福岡設立のヒントを与えて頂いた、波賀正一さんが平成4年3月に自費出版された「自分という商品の磨き方、売り込み方」という著書に、「人間として生きていく上で一番大切な能力は『自分で自分を励ます能力』だと、私はつくづく思うのです。」という一節があり、これも私の「言葉の杖」となっています。どちらかという周囲の励ましによって成長し、周囲の励ましを期待し、周囲の目を気にしながら生きてきた私にとって、本当の意味での自立を考えさせられた言葉です。

「いつも励ましてくれる誰かも、いつも元気で心に余裕があるとは限りません。自分のことに精一杯でそれどころではないという事だってあるはずですよ。」と、述べられている通りだと思います。

メゲそうになったら、「がんばれ、がんばれ、自分。しっかりしろよ、自分。まだまだやれる、まだできる。がんばれ、がんばれ、自分。」と自分で自分を励ましています。

### 「成功への心構え・その構造」

”捨てる言葉” ”自分のものにする言葉”

1. 私はできない ⇒ 私はできる
2. やれるかな ⇒ 必ずやる
3. どうかな ⇒ よい結果を期待する
4. わからない ⇒ 理解する
5. 時間がない ⇒ 時間をつくる
6. たぶん ⇒ 断乎として
7. 自信がない ⇒ 自信がある
8. 信じられない ⇒ 信じる
9. ”私が” ”私が” ⇒ ”あなた”という言葉を

多く

上記は、平成3年7月に出会った、SMIプログラムの基本的な考え方の一部です。SMIとは「サクセス・モチベーション・インスティテュート」の略で、アメリカのポール・J・マイヤー氏が <次頁につづく>

＜ 随想 つづき ＞

創始された「価値ある目標を段階的に達成するシステム」で、一つのシステム化された人生成功哲学と言えるものです。その中でも、上記の「成功への心構え・その構造」は、SMIの基本のような気がし、毎朝、あるいはちょっぴり消極的になりそうな時に復唱することで、勇気づけられます。特に、でしゃばりで失敗することの多い私に取って、最後の「私が”私か” ⇒ ”あなた”という言葉を多く”の項は、貴重な教えであるとともに、「成功への心構え・その構造」が、よくある「行動あるのみ」の考え方でなく、バランスの取れたものになっているような気がします。

「朝の誓」

今日一日 三つの恩を忘れず (親・師・社会)  
喜んで進んではたらきます

今日一日 人の悪を言わず  
己の善を語りません

今日一日 気付いたことは  
身がるにすぐ行きます

今日一日 腹を立てず  
不足の思いをいたしません

今日一日 三つの無駄を排し (物・時・心)  
新しく大地に生き貫きます

上記は、朝起会の朝の誓い五ヶ条です。

「朝起会」とは、毎朝5時から6時まで一日

も欠かさず全国いたる所で行われている、(社)実践倫理宏正会の集会であり、「朝の誓」は集会の冒頭参加者全員で唱和するものです。

平成4年6月に入会した動機は、ダイエットの為、早起きして運動することを何とか継続するためと、会の主目的から外れており、出席率も約30%程度と、劣等生ですが「朝の誓」は私の価値観や倫理感を変化させつつあります。どちらかというところ、入会までの私の生き方は、「朝の誓」と正反対な生き方だったような感じで、戸惑いがありました。何十回と復唱していると、なんとなく、気が楽になり、「言葉の杖」になりつつあります。

以上、技術士取得以来 得てきた「言葉の杖」を紹介させて頂きました。4つを並べてみると、同じような部分があるかと思えば、正反対の部分もあり、ちょっぴり支離滅裂ですが、私に取っての現時点での「言葉の杖」を紹介させて頂きました。まだまだ未熟で「言葉の杖」通りに実践できませんが、それぞれに自分の生き方の指針となる言葉であり、「人生の杖」として、「技術士」という資格を大いに利用し、色々なところへ出かけて、色々な人と出会い、色々な「言葉の杖」を探したいと思っています。

(日本道路協九州支店勤務)

＜随想 おわり＞

 技術動向 

## プレイバックバーン・ユニット

(財エネルギーセンター会長賞受賞品)

田島 積 (北九州・機械)

### 1. 開発の目的と応用

含水含カロリーの廃棄泥液や有機酸性泥滓、難燃泥液等は、発生量も多く、処分コスト高のうえ、公害環境問題にも悪影響が多い現状である。

本開発は、これらの廃棄物を含水粘結スラッジ含有物も含め、壊細噴霧化して、極めて低コストで燃焼できるユニット型再生燃焼機を研究開発し、省エネルギーや環境問題対策に貢献する目的で実施されたものである。

現在使用中の燃料の代替利用や、低コスト熱源による他機種との組合せ等、活用分野も広い展開となっている。

尚、本機は応用の面でも汚泥液等のみでなく、廃棄物再利用にも効果的な熱源として活用され、廃木材、廃竹、廃ミカン滓、バカス澱粉滓等々の有機廃物から炭化品活性炭、竹油、ミカン油、木酢液等の抽出や、多量の水性ガス発生の

＜次頁につづく＞

//////////  
/<技術動向 つづき>

燃料代替にも利用でき、効果の範囲は極めて広いものとなっている。

本開発品名を「プレイバックバーン」と呼称している。

2. 開発の経緯と内容特長

- 従来、含水物や硬質強粘結性廃泥液は、失火不安定ノズル詰まりなどで、微細化燃焼はむづかしい状況であった。
- 今回は反発引きちぎり型特殊構造の壊細と同時に水の微細処置も可能にした新しい工夫研究を行い、かつ極めて小型の可搬タイプとした。この結果平易に現在稼働中の炉やボイラー等の燃料に併用も可能となった。
- 燃焼排ガスについては、噴霧燃焼部分に燃焼調節胴を設け、窒素酸化物の低減と高効率燃焼の対応を施した。
- この装置は、前処理装置、噴霧解砕装置と燃焼調節胴の3者を一体化ユニットとし商品化したものである。
- 本機は取扱も容易で、耐久性も考慮し、可搬式的设计で、火炎温度も高温対応可能である。  
尚、本機を利用して他分野の廃棄物再生利用処理にも役に立つことが特長の一つでもある。

3. 市場性、普及性

(1) ユニット単独での利用分野

- 各種廃油類の含水物やスラッシュ内在物の燃料転換利用（各所で実用中）
- 魚油に魚粉廃滓屑を混焼・A重油代替燃料とする（三菱重工・下関造船所、実用試験済）
- 原油タンカー船底残油スラッシュ類異物混入含水廃油泥液の燃料化。（㈱ビルド、実用テスト納入）
- 焼酎廃泥の含水高酸性スラッシュ状泥粕の燃焼とスチーム発生利用。（鹿児島、実用試験済）
- 食品加工や食用油製造時の廃泥工場洗浄油液、低質油類等実用試験、実機利用展開中。

- 高温火炎利用の焼却灰溶融は、各種灰、炭化固形物について実用化テストを試行している。

(2) ユニットを他の装置と組み合わせる利用分野

- 生ゴミや含水率の高いゴミ焼却装置の火源に利用（㈱ビルド埋設式炉に装着納入）
- 死魚類生体等の低コスト焼却に炉と組み合わせ大幅なコストダウン実用化（佐伯市養魚地区2基、浜田重工㈱より炉と組み合わせ納入）
- 廃竹、ミカン廃物、廃木材等の有機廃棄物から炭化品、活性炭、竹油、ミカン油、木酢油等の再生品を低コスト回収利用。（鹿児島、直方等納入）  
尚、この炭化活性化炉装置はCCR方式で連続投入、連続排出の新規開発商品で熱源はプレイバックバーンを装着している。
- 医療廃棄物処理は高含水の紙オムツが厚生省の指針 800°C以上で焼却できるかが問題。又、灰の処理も溶融無害化することになれば、コスト高と炉の設置場所も問題化は必至となりつつある。本機は特殊な攪拌旋回型焼却装置（新規開発商品）にプレイバックバーンユニットを装着、極めて低コストで処理する実用試験機を制作試験中、紙オムツ、生体屑、注射針、その他廃容器等の高温処理に良い結果が得られ実用化に進展中である。尚、本機は車両に積載して移動する方式であり、炉の設置場所反対の苦情にも対応可能な設計となっている。


- 下水汚泥処理は量的にも多量で高水分であるため処理のコストが嵩み、海洋投棄をはじめとして環境問題にも悪影響が多発している。灰化しても問題が残るものは、溶融セラミック再生物とする方式を試験中である。4000°Cマルチアークテストでは特殊セラミック見本品ができ、性状吟味中となっております。

<技術動向 おわり>

◎(社)日本技術士会九州支部・九州地方技術士センター 地区別会員数(平成3年7月31日現在)

地区	九州支部			地区	九州地方技術士センター		
	会員	正会員	準会員		会員	正会員	準会員
福岡	117(2)	231(2)	31	大分	20	21	8
北九州	33(1)	51(1)	6	宮崎	11	25	4
佐賀	5	15	9	鹿児島	14	38	13
長崎	16	26	7	中四国	—	6(1)	17
熊本	21	21(1)	19	合計	237(3)	434(5)	114

(注) 九州支部準会員は含まない。  
( )は2部門以上の取得者数。

✻ 会員ニュース 

☆(社)日本技術士会(九州支部)入退会

(区分)	(地区)	(氏名)	(部門)
入会	福岡	正 頌 松藤 康司	衛生工学
"	"	" 柳瀬 龍二	"
"	"	" 佐藤 隆二	電気電子
"	"	" 粟津 幸平	建設
"	"	" 川瀬 浩之	"
"	"	" 清水 卓實	"
"	"	" 清杉 睦雄	"
"	北九州	" 霜鳥 一三	金属
"	"	" 長崎 治夫	電気電子
"	"	" 山崎 康統	経営工学
"	熊本	" 五所 直久	林業
"	"	" 高垣 幹雄	船舶
"	大分	" 室之園 泰昭	建設
退会	福岡	正 頌 迫 秋一	建設
"	"	" 永島 英起	"
"	佐賀	" 今瀧 淳	"
"	長崎	鞆 太田 黒俊晴	"

☆九州地方技術士センター入・退会

(区分)	(地区)	(氏名)	(部門)
入会	福岡	正 頌 堤 利文	建設
"	"	" 波多野 徹	"
"	"	" 恒富 赳彦	応用理学
"	"	鞆 笠村 幸一	建設
"	"	" 松岡 省三	"
"	鹿児島	" 山本 茂教	"
"	北九州	正 頌 樋口 允宏	金属
退会	福岡	正 頌 村橋 進	建設
"	"	" 永島 英起	"
"	"	" 豊原 利行	"
"	"	" 大丸 健之助	水道
"	"	" 多田 稔	応用理学
"	佐賀	" 今瀧 淳	建設
"	福岡	鞆 松本 裕哲	"
"	中四国	" 瀬尾 尚平	電気電子
"	"	" 小南 洋	水道

-受付順、敬称略-

＜会員ニュース つづき＞

☆会員勤務先(住所)および連絡先変更

1. 富田 浩一 (機 械)  
勤務先 〒810 福岡市中央区渡辺通  
1-12-9  
(株)サンテクノ  
TEL (092)751-7997
2. 今西 肇 (建 設)  
勤務先 〒814 福岡市早良区曙2-5-1  
(財)大阪土質試験所福岡事務所  
TEL (092)841-5496
3. 高橋 保夫/江頭 清巳 (建 設)  
勤務先 〒815 福岡市南区大橋2-8-1  
西鉄シーイーコンサルタント(株)  
TEL (092)511-2441

4. 西山 隆 (建 設)  
連絡先 〒819 福岡市西区野方3-45-10
5. 堀川 光治 (建 設)  
勤務先 〒812 福岡市博多区綱場町8-23  
朝日生命ビル  
(株)東京建設コンサルタント九州支店
6. 松本 泰輔 (建 設)  
勤務先 〒812 福岡市博多区店屋町1-35  
三井建設(株)九州支店
7. 境 邦誓 (建 設)  
勤務先 〒880 宮崎市天満町3-1-42  
九州電力(株)小丸川開発事務所  
TEL (0985)26-9071

＜ 会員ニュース おわり ＞

◇“会誌”技術士”最近号の主要目次

☆7月号

- ・提言 技術士の報酬についての提言  
/鈴木 清
- ・研修のページ  
農業をとりまく50年の現況  
/福岡 三郎  
バイオリクターによる分岐シクロ  
デキストリンの製造 /酒井 重男

☆8月号

- ・第19回技術士全国大会(仙台)のご案内
- ・提言 技術士のネットワーク  
/永井 雄一
- ・研修のページ  
ヘドロと石灰との化学反応性  
/木次 恭一

☆9月号

- ・提言 技術士になぜ協同組合が必要なのか  
/小林 忠敬
- ・研修のページ  
サービスマーク利用制度  
/尾崎 光三

★投稿を募る★

技術研究論文・技術士の主張・賛助会員会社の紹介など、技術的なことは勿論会員の受賞などのニュースもお願ひします。積極的な皆さんの投稿をお待ちしております。(200字詰め原稿用紙2～3枚程度を目安に願ひます。支部事務局宛)

✍ 編集後言己

“技術士だより”も4周年目に入った。今回から編集委員として、頼もしい助っ人棚町修一さんがこられた。ますます充実したものをお送りしたいと思います。(小)  
本号より編集の一員となり、会員の皆さんの“タメ”になる新鮮な情報を定時に、お届けしていきたいと思っております。どうぞよろしく願ひいたします。(棚)

発行：(株)日本技術士会・九州支部  
九州地方技術士センター  
〒810 福岡市中央区大名1丁目  
12-61 新天ビル402  
☎(092)771-9534  
編集：九州支部・総務委員会